夫「なんで、うちの子は人気があるんだろね」「うん、うん」

これは最近、いえ、正確には二〇一年七月から
私が家で毎日交わされている会話のほんの一部で
す。お気づきの方もいらっしゃると思いますが、実は、
飼い犬の話なんです。「うちの子」とは、この五月
に「二歳になる柴犬の男の子」を残しているミッ
クスで、「うわぁ、ペットではない」というプレイ
をもつ男の子。地鳴りのような鳴き声をもつ、他の
男の子には挑戦的で、お医者さんにも聞いていたと
いう武勇伝の持ち主ですが、まるとはなぜかフェル
ドリーです。かず子はダックスと柴のミックスでと
ても愛想のいい一歳の女の子です。
「行っていい子だ」。「なんで面白い子だ」とおおらかに
受け止め笑っていたときの、あのあたたかな平和
的雰囲気だよねっ。一つ
会話をどのように進めるかといいますと、ま
ず、朝の散步担当の夫から、お散歩エピソードをき
ながちニコニコガヤガヤと朝食をとり、夜は夕方
散歩担当者やその日家でまると一緒に入った人を中心
に、「きょうのまるちゃん報告」と、盛りあがる
がら夕食、という具合。その内容は、「きょ
んだから」の二つは必然的に入ることになっていま
すが、その他は、枯れ葉が風に舞ってうるを、ま
が追いかけてかわいかったとか、桜の枝をくわえて
歩く姿が、木枯らし紋次郎みたいдалったとか、工
事監視員のおじさんに、「立派な犬だね」とほめら
ら、びっくりしてワンっとほえたとか、見事に、ほ
んで、見るような内容ですが、私たち家族にはかなり
感心するような内容ですが、私たち家族にはかなり
っても、まるの話を聞いて笑うと一気に楽しく
なって、気持ちまではずんできちゃうのですから不
思議です。
会話をはずむといえば、私が担当している幼稚園
の遊びのクラスの後で、パートナーの千春さんとよ
く話が盛り上がります。はずみをつけてくれるの
は、子どもたちのすてきな感覚です。例えば、「きょ
う、げんくん、コンクリートの穴に絵の具で色を
ぬってたら、その穴が急になんかこわい生き物が住
んでる池にみえてきちゃってね。面白かったね
えとか「私が内緒話をして、誰にも言わないで
ねっていうら、ちっちゃんが、「私の中には言
うつもりじゃないよ」というように、しばし

半分住んでいるような子どもたち。そんな彼らの面

白い世界を保育者同士話しはじめたら、会話はず

まないわけはありません。そして、どうも子ども

も話には活性効果もあるようです。疲れてい

て、どうその話題に注目するのかも、今度はどんな面白いいことをして遊ぼうかなって、エネルギーとアイディアが湧き出てくる

のですから不思議です。

会話が楽しくはずむときって、話ししよう人たち

が、その話題に対して無条件に興味と好奇心と深い

愛情を抱いているように思います。それが子だった

のうち、犬だったり、幼稚園の子どもたちだったらしたり。未来にたのしもしあわせなことですか。

遊歩道の野の花が、もうすぐはやかに咲きだし

ます。あたたかくなれば、まるの散歩も長くなっ

て、まる話もますます充実し、私が家会話をおお

いにはまずくれることでしょう。ここで、まる

に感謝をこめて、はなまるをあげたいと思います。

はなまるまるちゃん、ちょっとくちびれがすくなくな

ってきた私たちに、これからも楽しいエピソードをよ

しくお願いします。

（幼年童話作家）